



Kobe Shoin Women's University Repository

Title	追悼の辞
Author(s)	学長 黒澤一晃
<i>Citation</i>	キリスト教論藻 (KIRISUTOKYO RONSO) Bulletin of the Institute for Research of Christian Culture, No.18 : 1-2
Issue Date	1985
Resource Type	Bulletin Paper / 紀要論文
Resource Version	
URL	
Right	
Additional Information	花木正和先生追悼号

追 悼 の 辞

学長 黒 澤 一 晃

私どもの敬愛する花木正和先生には、昭和60年6月28日逝去されました。まことに痛恨の極みであります。享年わずか60歳でありました。

先生は、昭和23年京都大学文学部文学科をご卒業後、昭和24年9月より松蔭女子学院に奉職され逝去される日まで36年の長きにわたって、研究と学校行政の両面におけるそのご業績をつうじて学院の発展に献身されました。

先生は、本学『研究紀要』創刊号に、「アルペール・カミュにおける《l'absurde》の思想」と題する論稿を発表されて以来、その主要論文の大部分を本学『研究紀要』ならびに本学『文林』に寄稿されました。先生の学者としての主たる研究領域は、フランスの近代詩とりわけボードレール、ランボーを中心とするフランス象徴主義の詩人およびわが国の近代抒情詩人の研究でありましたが、とくに中原中也に関する研究業績は学会において高く評価されるものでありました。

先生は、松蔭高等学校部長を経て昭和38年以降は、同短期大学教授・大学教授を歴任されましたが、その間、松蔭女子学院理事・常務理事として学院の運営に当たられる一方、大学設置準備委員長として大学新設の中心として活躍されました。大学発足とともに、学生部長・総務部長・教務部長等を兼務され、昭和51年4月より大学・短期大学副学長の要職につかれ、その任期満了の同57年4月からは、本学建学の精神の具現化の一環として設立された「キリスト教文化研究所」の初代所長に就任され、本学の発展はもとよりわが国における高等教育の発展のためにその情熱を傾けられたのであります。

この30有余年の長きにわたって、先生は身をもって学者・教育者としての範を示されました。その人格の高潔、学識の深淵、教育に捧げる情熱は、学生・同僚教職員の等しく尊敬するところでありました。

先生のこのようなご功績に対して、昭和60年7月26日、政府より正六位勲

四等瑞宝章が遺贈されましたが、われわれもまた先生の生前の学問のご功績を讃えるとともに、先生のご貢献に対する感謝の念をこめて、謹んで本号を「花木正和先生追悼号」として故花木正和先生に捧げる次第であります。

(昭和61年1月20日)